



ゴールドラット博士の TOC (20)

(It's not luck)

2月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2025年2月1日(土)

UDE (Undesireble Effect) は、事業環境や事業遂行上の多数の問題点である。しかし、その中で中心となるものは一つか二つであって多岐には渡らない。多くの事実(UDE)は主たるものとの関連において集約されて、対象となるUDEから消えてしまう。例えば、環境悪化の中で中心、核心となるものは一つであると言える。核心となるUDEは何か、それを特定し、ポイントを絞るのが経営である。

例えば、ある事業において、**経営不振の原因**となっている(1)発行部数の減少、(2)広告収入の低下、(3)デジタル化への対応遅れ、(4)顧客層の高齢化、(5)購買意欲の低下、(6)年齢層の若年化による流行遅れなど、(7)ビジネスモデルの陳腐化と言える。UDEを挙げると多岐、多数に渡る。

しかし、その根本原因は究極的には(3)デジタル化への対応遅れとなると考えられる。

事業における不振の根本原因、核となるUDE(ボトルネック)は、事業のデジタル化の遅れであると特定できる。この特定されたボトルネックを効果のある方法で解決すれば、上記にあげた(1)発行部数、(2)広告収入、(4)顧客層、(5)購買意欲、(6)流行遅れなど、ビジネスモデルの陳腐化は自然と解決できるように思われる。

事業の社会的耐用年数が、きびしく見れば経済的に10年程度と思われたとして、それを脱却、解決するのが**事業再生のポイント**となる。

企業経営は有限の資源の最有効活用である。制約条件への**経営資源の集中投入**である。その企業経営の中において、不都合なものは改善するか、撤去し、最重要課題に集中するのが企業経営である。

理屈の上では、以上の通りであるが、社内の旧勢力との争いやボトルネックの解消のための経営行動は容易とは思われない。しかし、この制約を脱却する方法それは**デジタル化の方向**、それを実行しなければ企業の未来はないという**確固たる方向**である。

企業経営はそれを継続しようとするなら、UDEの解決に全力をあげた行動が当然である。